

ID: 20101

15. 4. 17

2014 年度

調査実習概要報告書

1/1

2015 年 3 月 20 日

開講科目

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	おおたき ともおり	-----	
大瀧 友織			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)		大阪経済大学 情報社会学部	
同上			
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習 I	OKZb-140701-2	22	
社会調査実習 II	OKZb-140702-2		

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

問題意識および仮説の設定、質問文・選択肢の作成、調査の実施、データの集計・分析、報告書の執筆。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：大学生の生活に関する意識調査
2. 調査の内容/概要：主に大学生の生活や意識、ライフスタイル、人間関係などに関する調査票調査
3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：大阪経済大学情報社会学部の学生。有意抽出による集合調査。
4. 主な調査項目：生活環境とコンビニエンスストア利用、大学の施設に関して、SNS 利用と大学生生活の充実度、SNS 利用と孤独感、大学生の収入・刺繍津・貯に関する意識項目など。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：
授業時間を利用した集合調査。受講生自身が調査依頼をおこない、分担して調査員をつとめ、調査票の配布・回収をおこなった。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：
調査実施時期：2014 年 7 月、調査地：大阪経済大学情報社会学部、調査員の数：22 名
7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：
配布数 234 票、有効回収数は 229 票。有効回収率は 97.9%。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：
SPSS による統計解析 (クロス集計分析、カイ二乗検定)
9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：
性別・居住形態 (一人暮らしか否か) によってコンビニ利用の様相が異なる、部活・サークルに所属しているか否かによって、SNS の利用頻度に差があるなど。
10. 報告書刊行の予定と概要：
実習の成果は、『大阪経済大学情報社会学部 社会調査実習 2014 年度 報告書』として、まとめた。

< 記入上の注意点 > 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/」)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。
3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。
4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。